世界のリンゴとナシの2025/26年度生産量予測

[FreshPlaza](#) 2025年8月11日

EUのリンゴ生産量は底堅く、ナシは微増

本日アンジェ(フランス)で開催された「プログノスフルーツ (Prognosfruit) 2025」の会議において、世界リンゴ・ナシ協会(WAPA)は2025/26年度シーズンの予測を発表した。フランスの全国リンゴ・ナシ協会(ANPP)との共催によるこの年次イベントは、リンゴ・ナシ部門における欧州有数のフォーラムであり、EU域内及びその近隣地域からの業界指導者に加え、米国、中国、南半球からも業界関係者らが参加した。会議では新シーズンの展望及び同分野の将来について議論が行われた。

EUの主要生産国におけるリンゴの生産量は、前年とほぼ同水準の1,050万トン(-0.1%)に達するものの、3年平均及び5年平均を7.5%下回るものと予測されている。主要品種であるゴールデンデリシャスは微減の206万トン(-0.9%)で、ガラは横ばいの143万トンと見込まれる。レッドデリシャス及びアイダレッドはそれぞれ-19.2%及び-8.8%の顕著な減少が見込まれている。

ナシについては、EUの総生産量を前年比1.4%増の179万トンと予測しているが、これは3年平均を2.5%下回る水準にとどまる。イタリアの生産量は大幅に減少する見込みであり(-24.7%)、ベルギー(+32.1%)とオランダ(+8.1%)の増加によって埋め合わせされる。コンファレンスナシは85万7,368トン(+15.6%)に増加する一方、ウィリアムズ(パートレット)は-16.7%の減少が予想されている。

リンゴとナシの両品目において、近年の平均と比較して生産量が少ないことは収量の安定性に関する現状の課題を反映しており、それには、気候の変動、農業資機材の制約、優良だが生産性の低い品種への移行や有機農法への転換が影響している。

市場バランスは整うがリスクが続くシーズン

今年のEUの収穫量は安定しており、国内需要、EU域内貿易、加工及び輸出機会を含め、バランスの取れた市場が確実に見込まれる。米国とインドでは収穫量がわずかに増加すると予想される一方、トルコ、セルビア、モルドバ、ウクライナ等のEU近隣地域及び中国では減少が見込まれており、中東、中央アジア、インド及び東南アジアにおける市場力学に変化をもたらす可能性がある。

WAPAのフィリップ・ビナール事務局長は、次のように述べた：安定した生産予測にもかかわらず、本セクターは憂慮すべき不確実性に直面している。気候変動、病害虫の脅威への対応手段の制約、労働力不足、市場価格の上昇を上回るコストの上昇、地政学的な不安定性、変化の大きい貿易環境、さらに通貨の不安定性が、長期的な視野を曇らせている。特に政治の傾向が補完性原則の強化(加盟国への権限移譲)へと向かう中、これには競争力の低下とEU生産者間の競争の歪みを招くリスクがあり、共通ルールに基づく強固な単一市場を有する欧州連合の強化が不可欠である。

安定、投資、及び明確で首尾一貫した支援策を求めるリンゴ・ナシ部門

プログノスフルーツ会議は、業界のリーダー達にとって、EUの果実セクターの競争力と投資対象としての魅力を維持するには、予測可能性と安定性が重要であることを改めて強調する機会となった。EUが引き続き共通農業政策(CAP)の将来を検討する中、リンゴ及びナシの生産者は、2028年から2034年の中期財政枠組みにおける予算削減提案及び加盟国への権限移譲に向けた中核的責任の分散化 - これは共通農業政策の基本原則を瓦解させる - に対して懸念を強めている。これらの変化は、欧州のリンゴ・ナシ生産者が共通の課題に効率的に対応する能力を阻害する可能性がある。

COPA-COGECA(農業団体の連合体)のリュック・ヴァノワールベーク果実・野菜作業部会議長は、次のように強調した：簡素化と競争力の促進は、煩雑な行政手続きの削減から政策ツールの調和(環境フットプリントの評価や植物保護物質の汎欧州承認への移行等)まで、様々な方法で行うことができる。これらの施策は生産者の支援に不可欠である。農業なくして食料は存在しない。政策立案者は、彼らの野心 - 食料安全保障の達成、食料主権の向上、持続可能性と気候課題への対応、農村部の生計向上、最小限の環境負荷による最高の栄養価の提供 - の中心にリンゴ及びナシを含む果実・野菜が位置することを認識すべきである。

リンゴとナシ：ヨーロッパの未来のための戦略的作物

リンゴ及びナシは、合計100億ユーロ超のビジネス的価値を有する経済的推進力であるばかりでなく、環境的及び社会的持続可能性にとっても不可欠である。プログノスフルーツ会議2025において、業界は政策の明確化、最新の農業資機材へのアクセス、及び植物保護製品の責任ある使用に対する否定的な議論の終焉を改めて求めた。将来の成功を確実にするため、業界の指導者らはEU機関に対し、消費の促進及び域内外の市場における競争力維持のためのビジネスに優しい一貫した環境の構築への支援を要請した。

ANPPのダニエル・ソーヴェトル会長は次のように締めくくった： 本年、第50回プログノスフルーツ会議をアンジェで開催できたことを嬉しく思う。本イベントは、リンゴ・ナシ分野の将来にとって極めて重要な時期に開催された。世界的な不確実性が高まる中、欧州の生産者は一層の可視性とEUの強化を必要としている。加盟国への権限移譲に向けた動きは、簡素化と競争力向上を目指す欧州の意思決定の仕組みの野心と矛盾しており、一貫性を欠いている。包装、植物保護製品の認可、輸出プロトコルに関する共通規則は、今日危機に瀕している競争力及び信頼に関する現在の懸念の多くを解決し得る基本原則である。

世界23カ国から230人以上の代表者が集まったアンジェでのプログノスフルーツ会議は、欧州のリンゴ・ナシ業界の指導者と、EU近隣諸国(英国、トルコ、セルビア、モルドバ、ウクライナ)及び中国、米国、南半球諸国の主要な代表者との間での建設的かつ前向きな交流を可能にした。

次回のプログノスフルーツ会議は、2026年8月5日から7日にドイツで開催され、同会議が50年にわたり途切れることなく開催されてきたことを祝う。